



## 来春県内から採用予定の一般幹部候補生が陸上自衛隊幹部候補生学校を研修

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己1等空佐）は、10月28日（月）・29日（火）の2日間、陸上自衛隊幹部候補生学校（福岡県久留米市）で行われた「令和元年度陸上自衛隊幹部候補生学校研修」に、県内から来春入校予定の2人を引率した。

この研修は、今年度試験に合格した来年3月採用予定者を対象に、幹部候補生学校で学ぶ「使命感、責任感、実行力、判断力、品性、体力・気力」の6大資質の周知をはじめ、行われている教育訓練や学生舎などの生活環境を实地に研修し、心身ともしっかりと準備を整えてもらおうと企画されたもの。今回、全国から採用予定者146人が参加した。

1日目は、校内グラウンドで行われていた、自衛官の基本動作（基本教練）と戦闘訓練の指導方法の実技や月1回行われている銃剣道・徒手格闘の厳しい訓練、日々のクラブ活動の様子を見学。そして現在入校中の先輩隊員との懇談などを実施した。

参加者は、懇談中も日々訓練に勤しむ先輩たちの真剣な眼差しを目のあたりにし、活気に溢れ歴史ある幹部候補生学校の質実剛健の気風に触れたようであった。

2日目は、同学校長・藤岡史生陸将補が講話を行い、自身が同校卒業後に歩んだ部隊や幕僚経験を踏まえた「幹部自衛官のあるべき姿」としての目標をはじめ、「この幹部候補生学校では個性を磨き、自ら進んで困難に立ち向かってほしい」と激励の言葉を送った。

参加者からは「学校長の講話で、『リーダーは人の上ではなく前に立て』という言葉に非常に感銘を受けた。自分も学校長のような幹部自衛官になりたい」「宿舍や教場をはじめ心身を鍛える障害物コースなど、来年3月から自分が生活する場所を事前に見学できて不安を解消することができた」などといった感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も入隊予定者の疑問や不安の払拭に、全力で努めていく。



## 常葉大草薙キャンパスで自衛隊が初めて広報活動

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己1等空佐）は11月2日（土）3日（日）の2日間、常葉大学草薙キャンパス（静岡市）で行われた「第2回心薙祭」において、広報活動を実施した。

今年度の心薙祭のテーマは「を、トコトン」。日頃から常葉大の学生がトコトン打ち込んでいる学業、部活、サークル活動などの成果を披露し、一緒になってトコトン楽しんでもらおうと草薙・瀬名の両キャンパスから約4000人を超える学生が参加した。

今回初参加の自衛隊は、学生等による88の趣向を凝らした模擬売店などとともに自衛隊コーナーを開設し、学生家族や地域住民など2日間で約1万2千人が訪れ大いに賑わった。

特に、この度甚大な被害をもたらした台風15号及び19号における災害派遣状況をパネル展示し、当大学には女子学生も多いことから女性自衛官の活躍なども発信。そして陸上自衛隊那覇駐屯地から応援に駆けつけてくれた第15音楽隊の女性自衛官、中村有里1等陸士とともに、ほぼ全ての職種に男女の差がないことや、気になる自衛官の生活などを分かりやすく説明し、学生や来場者の質問疑問にトコトン答えた。

会場には陸上自衛隊の中型トラックと偵察用オートバイ隊員の力になる携行食を展示するとともに、高度6千メートルから降下する空挺隊員の訓練を体感できるVR体験、陸・海・空自衛官の制服試着、野外訓練で隊員が使用する背のう（リュック）の背負い体験などを行い、多くの来場者が自衛隊をトコトン堪能した。

説明を聞いた学生からは「現役大学生でもなれる予備自衛官補という制度を初めて知った。在学中にチャレンジしてみたい」「私にとって遠く感じていた自衛隊が、女性隊員をはじめとても気さくな隊員の方と接して身近な存在に変わった」といった声を聞くことができた。

静岡地本は、今後も大学祭などに積極的に参加して国を守る自衛隊を身近に感じてもらうとともに、自衛官を目指す熱き学生のナビゲーターを担っていく。

